



奈良市水上池のサンショウモ 1986. 10. 12

近年の水質汚染などで消滅したのか、現在知多半島では、同種の生育確認はされていないことから、生態について特に関心のある水草の一種であった。

〔付 記〕今から15年以上前の水上池の水生植物について、興味深い記録があるので紹介しておこう。出典は『奈良市史 自然編』（昭和46年）である。中略部分を明示せずに引用する。

「水上池は満水面積が15ヘクタールもある巨大な池である。池の中央に幅2メートル余りの堰堤が東西に通じ、その北側を上池、南側を下池と呼んでいる。

(1) 上池の水生植物

北部の水深が浅い地域には、ヨシ・マコモ・ガマなどの大型挺水植物が池の周辺にそって環状に繁茂している。やや深い地域にクログワイ・マルバオモダカの群落がみられる。ハスは池の中央部まで繁茂している。

水深が深いところの水面にはオニビシ・ガガブタなどが水面をおおい、ウキクサ・サンショウモなどが水面に浮遊している。

この池の北部には食虫植物のタヌキモ類が多く、浮遊性のものにはタヌキモ・ノタヌキモ・フサタヌキモがあり、沈水性のものにはミカワタヌキモ・ヒメタヌキモなどが見られる。奈良県内でこのように多種類のタヌキモ類の生育している溜池はほかに例がない。

沈水性の水草はオオトリゲモ・マツモ・フサモ・クロモなどで、池の全域に分布している。

なお、小清水卓二博士は昭和10年、京都府の巨椋池に生育していた食虫植物の珍種ムジナモをこの池に移した。その後20数年間よく繁殖していたが、現在はその姿がほ

とんどみられない。

(2) 下池の水生植物

池の周辺の浅い地域にはマコモ・ヨシ・ウキヤガラなどが繁茂し、中央部から東部までの全域にハスがびっしり繁茂している。

池の西部の水の深い地域には、オニバス・オニビシ・ガガブタなどの浮水性の水草が水面をおおっている。秋のころ、水面に紫色のオニバスの花や白色のガガブタの花が咲き乱れて格別に美しい。

浮遊性の水生植物には、ウキクサ、アオウキクサ、サンショウモなどが、沈水性植物には、フサモ、マツモ、クロモ、オオトリゲモなどがある。」

(角野 康郎)

Aquatics Vol. 8 No. 2 抄録

◦ The Fringed Bog Orchid (Michael J. Bodle)

水辺や湿地に生育するラン科の *Habenaria* 属について、その生育地や繁殖法が書かれている。フロリダ州に生育する5種は「危機にさらされている種に関する州の法令 (Endangered Species Act)」のリストに載っており、目立たない植物であるため、その存在の貴重さは最後の一個体が除草されるまで認識されることはないだろうが、その時にはもう手遅れなのであると締めくくっている。

◦ Death in the Dose (Agrichemical Age)

‘Agrichemical Age’の許可を得ての転載記事。農薬などの化学合成物質の人体に対する影響は、実際は或る適用量 (dose) を越えて起ることが科学的に知られているにもかかわらず、なぜ多くの人々が百万分の一の危険率というごく少量の物質に対しても拒絶反応を示すのかについて論じている。話しは心理学におよび、①ガンなどの恐い病気に対するいけにえを探す感情的要求のあること、②自然およびその生成物が本質的に純粋で体によいという根深い信念のあること、③欲求不満や憤りを発散させるために大企業の悪口を言うというはけ口の無い要求のあることなどが書かれている。

訳者注：これに類似した内容のものがAPMSのニュースレターNo. 22に載っていたが、毒性に対する意識がアメリカでは変化しつつあるのだろうか？

◦ My Trip to Pakistan and India — Weeds, Weevils and Worries (Christine A. Bennett)
フロリダ大学の昆虫学者である著者と同僚の Buckingham 氏が1985年4月にパキスタン、インドに、クロモの葉を食べるミギワバエ科の *Hydrellia pakistanae* とチューバー (tuber) にアタックするゾウムシの *Bagous affinis* の採集と研究に行った際の紀行文 (苦労話し) である。この旅行によってこれまでの *B. affinis* に関するいくつかの疑問が解け、現在これをフロリダのクロモの除草のために放す許可を申請中という。

◦ Algal Identification (Carole A. Lembi)
素人にもわかり易く、藻類 (特に害となる種類のラン藻、緑藻、ミドリムシ、褐色植物について) の簡単な定義と同定法が図入りで書かれている。

◦ *Cercospora rodmanii*: A Biological Control Agent for Waterhyacinth (R. Charudattan)
1973年に発見された *C. rodmanii* はホテアオイを枯死させるビールス性の菌類であり、フロリダやアメリカ南東部に自然に生育している。この菌はホテアオイに特異的に効果を発揮し、安全な生物制御因子である。野外での実際的な効果には大きな巾があり、他の生物学的あるいは非生物学的制御因子と組み合わせられて実用的な除草物質として使用できるという。

◦ Sonar: EPA Approved! (David P. Tarrow)
水草の除草剤としての使用許可をSonar (フルリダンのエランコ社での商品名) がアメリカ環境保護局から得たのを受けて、同社の研究員が寄稿したもの (訳者注: 著者はFAPMSの会長でもある)。この薬品は1975年に発見され1981年から実験的に使用されてきたもので、光を防ぐカロテノイドの合成を妨げることにより、光に弱いクロロフィルを劣化させる作用をもっている。藻類には効き目がなく、維管束植物のうち特にマツモ、フサモ、クロモ、オオカナダモ、タヌキモ、トリゲモ、ヒルムシロの仲間などによく効くという。 (国井秀伸)

○水草研究会第9回全国集会の御案内

日時 1987年8月1日 (土) ~ 2日 (日)

場所 広島県豊田郡安浦町 グリーンピア安浦

エクスカージョンでは、西条盆地 (東広島市) のため池めぐりが予定されています。会の詳細や参加申し込みの要領につきましては、次回の会報でお知らせ致します。

○会員移動

<新入会>

○会費納入のお願い

昭和62年度会費 (3,000円) の納入をお願いします。当会の会費は前納制となっていますので、早い目をお願いします。なお、過年度分会費未納の方は、あわせて納入下さい。

送金先 振替口座 神戸 7-13829

水草研究会

退会される方は、必ず事務局まで御一報下さい。

○投稿のお願い

水草に関する総説、報文、短報、資料、紹介、エッセイなど、ふるって投稿下さい。

原稿は横書き原稿用紙に書くこと (タイプ、ワープロは可)。図はそのまま製版できるように仕上げ、活字の貼り込みを希望される場合は、その旨明記して下さい。別刷を必要とする方は、投稿時に部数 (50部以上50部単位) をお知らせ下さい (実費著者負担)。

原稿の送り先 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学教養部 角野康郎

水草研究会会報 No. 26 (1986年12月)

[Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会 (神戸市灘区鶴甲1-2-1)

神戸大学教養部生物学教室内)

編集 角野康郎

印刷 中村印刷株式会社

(神戸市灘区友田町3-2-3)